

## 2024年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (刑事訴訟法)

---

##### 第1問 (配点：30点)

次の(設例)を読んで、下線の現行犯逮捕の適法性について論じなさい。

##### (設例)

令和5年10月25日午後8時55分ころ、京都府警察本部の警察官Kら2名は、京都市上京区在住のVから、住居侵入被害発生の110番通報を受け、被害者V方に赴いた。Vは、Kらに対し、「私はこの家に両親と三人で住んでいますが、両親は昨日から旅行に行っていて家にいません。先ほど居間でテレビを見ていると、見知らぬ男が居間に上がり込んできました。私が悲鳴を上げると、その男は何もせずに逃げて行きましたので、すぐに110番しました。黒っぽいズボンをはいて紺色のジャンパーを着た30代の男でした。身長は160センチメートルくらいでした。」と説明した。

Kらは、Vとともに付近を捜したところ、上記110番通報から約20分後に、Vから約100メートル離れたコンビニエンスストア内で、Vから聴取した犯人の服装、年齢等と似た風体の男(X)が買い物をしているのを発見した。その直後にXが同店から出てきたので、Kが、Vに対し、Xを指さしながら「犯人はあの男ですか。」と尋ねると、Vは、「間違いありません。犯人の顔をよく覚えています。家に入ってきたのはあの男です。」と述べた。Kらは、同店前路上において、Xに対し職務質問を実施したところ、Xは「人の家に侵入などしていない。」と申し立てた。Xの外見からはV方に侵入したことをうかがわせる証跡は認められなかったが、Kらは、その場でXをV方に侵入した被疑事実(住居侵入罪)で現行犯逮捕した。

##### 第2問 (配点：20点)

自白の補強法則に関する条文をあげた上、同法則(その趣旨、補強証拠としての適格や補強証拠が必要とされる範囲など)について論じなさい。